

堺泉北港泉北6区緑地(1)

「日本野鳥の会」大阪支部、保護部長をしています。

この泉北6区の緑地整備事業ですけれども、この埋め立てが始まりましてから、たくさんの野鳥がやってくるということで、実は地元の方たちが1983年に野鳥園をつくろうという会ができて、大阪府に対して随分いろいろ働きをされました。府の方もそれに沿った形で、野鳥園をつくっていくという計画が1987年ぐらいから計画されまして、これは私、今資料を持っているんですけれども、これは平成2年3月の大阪府の港湾局の資料なんです。

今のお持ちになっている資料にも要望書が出ていると思うわけなんですけど、そういうふうな形で検討を進められてきたんですけれども、現地を見ていただいてわかるとおり、そのままずっと放置されて、盛り土化されている。それから葦原がありますが、鳥はいなくなっていて、モトクロスのコースになっているというような状況になっているわけです。

それで私どもとしましては、自然回復といいますか、大阪湾もかつて白砂青松といいますか、堺あたりは随分きれいな所で、自然海岸が随分あったんですけれども、高度成長に向かってどんどん埋め立てられ、それで港湾施設とか、それから空港建設で臨海部の自然が大きく改変されてしまって、水鳥の生息、あるいは魚類の産卵場所、さらには水質の浄化、こういう大切な役割を併せ持つ干潟、こういうものがどんどんつぶされて、残されていません。

全国的にも最も干潟が失われた地域というのが大阪湾です。名古屋でも藤前干潟は残されることになりました。東京湾でも三番瀬とか谷津干潟、これはまだ残っているわけなんです。大阪湾では南港野鳥園はあるわけですけれども、ぜひとも私どもの結論からいえば、自然回復型といいますか、復元して、共生し得る公共事業への転換を図っていただきたい。

泉北6区の公園整備、これは湾全体での干潟の復元を港湾整備計画の中できっちりと位置づけていくべきだというふうに考えております。

少し絵を見ていただきたいんですが。

干潟にやってくる鳥の中で、シギ、チドリという鳥たちがいるわけです。これは、今ごろの時期は夏に向かいます、北の方に向かって繁殖します。繁殖が終わりますと、8月になるとずっと南下して、南のオーストラリアとかニュージーランド、インドネシア、この辺で冬を過ごして、また北へのぼっていくというようなことを繰り返しているわけです。それで、日本が中継地になるということで、この鳥たちのためにも、干潟というものを用意しておいてやる必要があるということです。

これは大阪湾ですけれども、シギ、チドリと別に、カモ類ですね、大体カモ類というのは日本に200万羽参りまして、大阪府には4万羽くらい来るんですが、その鳥たち休む干潟はないんですけれども、やはり中継地ですから、ここへやってくるわけです。わずかに残された所です。大阪湾では、男里川とか、樫井川、大津川河口、それから南港野鳥園。それからカモ類は特に淀川の河口部から中津あたりまで来るといって渡ってまいります。

どういう鳥たちが来るかということ、これはシルエットですけれども、こういう種類の鳥たちがやってきます。

これは1980年の航空写真です。こういうふうな形になってましたから、石組みの間から、潮が引いたり満ちたりして、下の方にある写真のように、シギ、チドリたちがたくさんやってきたわけです。地元の方たちはこれを見て、何とかこういう自然を残してもらいたいということで、野鳥園をつくらうという会ができたわけです。

そのころどんな鳥たちが来ていたかということですが、これはツクシガモでして、これもレッドデータブックに載っているものです。

これはコアジサシで 500番くらいは、今の事業地のところへやってきたわけです。これはつぶされまして、今でもこれもレッドデータブックに載っているというような状況です。要するに、こういう砂れき地に営巣するわけですが、営巣する場所がないということです。これは夏鳥として大阪へやってくるわけです。夏鳥というのは、ツバメと一緒に、夏やってきて、日本で繁殖して、また南へ行く。

これはコチドリという鳥です。こんな鳥たちがやってくるわけです。

そういうことで、私どもとしては干潟環境の復元を重視した公園整備を行っていただきたいと。それから、野鳥の安定した生息地、多様な餌。それで、この事業地は7haですけれども、野鳥園の部分が4ha。これもちょっと狭いのじゃないかということで、要するに鳥を中心とした形で復元を図っていただきたいなと考えております。

これは5月29日の読売新聞に出ていたわけですが、小泉首相が28日に、自然と共生する社会の実現に向けて、自然再生型公共事業ということをお願いしまして、藻場の復元、埋立地の森林の創造、これが東京、大阪、伊勢湾ということで、大阪湾の干潟の復元もやっっていこうということを国としても取り組んでいこうということが大きく報道されております。

したがって、地元の人が希望され、そして鳥たちのため、国際的な役割を大阪でもやっていかなければいけないというふうに考えておりまして、ぜひこの事業を我々としては進めていただきたいということです。

(委員からの質問)モトクロスで何か鳥がいなくなったんですか。

私どもはきょうお話しするに当たって、地元を見ておかないとお話もできないということで、地元で見ていったわけです。かつては、先ほど見ていただいたように、鳥が来る環境にあったんですけれども、どんどん事業が進められ、建物が建ち、野鳥園予定地のところもそのまま放置されて、盛り土をされているということで、鳥がいる環境でなくなって、そこへモトクロスをやる人たちが、コースを勝手につくってやっているということです。